

ドイツ研修に参加して

木更津高専電子制御工学科 4年 富重博之

8月8日から29日の3週間、ドレスデンでのドイツ研修に参加してきました。9月に入った今でも日本では記録的な猛暑が続いており、涼しく過ごしやすかったドイツでの生活が、まるで夢の中の出来事だったかのように感じています。

帰国から1週間が過ぎ、今改めて思うのは、今回の研修での一番の収穫は大勢の仲間と培った友情だったということです。彼らと交流を持てたのはたったの3週間でしたが、非常に密な関係を築くことができました。またヨーロッパ、アフリカ、アジア、アメリカなど、世界中から集まった同世代の友人たちと一度に交流ができる機会というのは、この先もなかなか巡り会えるものではないでしょう。彼らと再会するのは難しいと思うと残念ですが、いつか必ずその願いを果たしたいです。

また当然のことですが、ドイツにいる間最も大変だったのはドイツ語でした。授業はもちろん、スタッフとの会話や就寝前のミーティングなども全てドイツ語で行われるので、はじめは全くついてゆけず不安を感じていました。しかし、4、5日目あたりから自然とドイツ語が聞き取れるようになっていきました。自分でも知らぬ間に力がついてきていると実感でき、とても嬉しかったことが強く印象に残っています。

一方で、友人との会話では英語に頼ることがしばしばありました。ドイツ研修の大きな収穫の一つとして英語が以前よりはるかに身近に感じられるようになったということが挙げられます。以前より聞き取る力がついたとはいえ、やはり集中してないとドイツ語はチンプンカンプンな宇宙語でしかありませんでした。一方、英語はまだまだ地球語で、コミュニケーションのとれる道具だと感じました。ドイツ語の学習という面からみれば決して良いことではないかもしれませんが、その分海外の友人たちとコミュニケーションがよくとれたと考えています。

最後にまとめになりますが、ドイツでの経験は日本に留まっていたら決して得られないようなものばかりでした。また単にお金を払えば得られるというものでもありません。自ら体験し、肌で触れて初めて得られる、目に見えない財産です。言葉にしてしまえばありきたりのことですが、そのことを身を通して感じられたのは非常に価値のあることだったと思います。ドイツで得られたものはまだまだ書ききれないほどたくさんあります。今回のような素晴らしい機会を与えていただいた Goethe Institut、そして高専のドイツ語担当の柴田先生に感謝を述べたいと思います。



私は、ドイツのドレスデンという町で行われた PASCH プロジェクトの青年向けドイツ語コースへ3週間参加してきました。10カ国以上からドイツ語を学ぶ生徒60名ほどが参加したこの研修は、私にとってとても素晴らしい体験で、私は自身のドイツ語学習に対していくつかのヒントを見つけることができました。

たとえば、私は独作文が苦手なため、ドレスデンでは大変苦労しました。なぜかというところ、(これはすべての外国語に共通することなのですが)ドイツ語で会話するということは、瞬時に頭の中で独作文を構築することに他ならないからです。それは母国語では当たり前のことですが、それがドイツ語となるとものすごく難しく感じました。これは、国内でただ漫然と文法を覚えるだけでは身に付かず、気づくことすらできませんでした。ドレスデンでは、私は独作文が苦手だという弱点を克服するために毎日必死でしたが、それは同時に多くの友人と話す機会を作ることにもなり、より多くの貴重な経験を積むことができました。

また、参加各国の様々な文化、言語や生活習慣に触れることもできました。私には、それらの違いはいずれも興味深く思え、他国の生徒と仲良くなるきっかけにもなりました。多くの時間を友人との観光、遠足、ショッピングやスポーツなどに費やした3週間でしたが、彼らと過ごした時間すべてが勉強でもあり、私にとって特別なものでした。

この留学体験は、今まで漠然と国内だけで完結していた自身の意識を広げるきっかけにもなりました。私は3週間に他国の生徒たちと共に過ごし、素晴らしい出会いを幾度か得たことで多くの尊敬できる友人に恵まれました。そして彼らと親密になり、話をしていくにつれ、私は将来に向けて本当に多くの選択肢があることに気がつきました。

語学は私たちの生活、学習、働く場をより広くしてくれるものとなります。もちろん、私はこれからも英語やドイツ語を勉強し続けるだろうと思います。そして海外の大学や大学院も視野に入れより優れた環境に学び、将来的には国際的に通用する技術者になりたいと思います。



ドイツから日本に帰国してから1カ月がたちました。もう1カ月がたってしまったんだと、時間の経過に驚いています。また、日本に再び慣れつつある自分に涙が出そうです。ドイツで3週間行って学んだこと、感じたことはたくさんあります。今すぐにでも戻りたいと思っています。

日本に到着して最初に思ったことは、日本は嫌だなと思ったことです。なぜなら、建物や景色がきれいではない、そして暑い、蒸し暑すぎるからです。自分が行ったドイツ南部のビルクレホフはとても涼しくて、過ごしやすく、どこの写真を撮っても絵になったからです(自分が日本にずっと住んでいたことも原因ですが)。ドイツで3週間行って学んだことの一番重要なことは、コミュニケーションの大切さです。この点は3週間の間毎日感じていました。やはり英語を話せることは必需品だと感じました。

このPASCHのプログラムでビルクレホフに来ていた国は、アイルランド、アゼルバイジャン、イタリア、イスラエル、ウクライナ、ウズベキスタン、ケニア、スリランカ、チェコ、中国、トーゴ、トルコ、フランス、ベルギー、ポーランド、マダガスカルで、日本を合わせて18カ国から来ていました。年齢的には14~18歳までで、一緒に暮らしてみて、日本の高校生が、中学生に思えるぐらい、全体的に大人だと感じました。

僕にとって、初めての海外滞在でしたが、コミュニケーションさえとれば、どこでもやっていける自信ができました。もともと食べ物は、あまり好き嫌いは無く、ドイツでの料理はどれもおいしかったです。特に、ジャガイモとチーズが多かったのですが、ソーセージは最高でした。あと、自己主張の大切さです。日本人は話さなすぎます。積極性が違いました。自分は言いたくても、通じなかつたりして、コミュニケーションの大切さを痛感しました。しかし、通じたときは楽しく会話が弾み、友達が増えました。ドイツ語の授業では、自ら進んで文章や答えを発言するし、それが日本とは全く違い、むしろ自分には向いているのではないかと思いました。

この3週間はとても充実していて、外国の友達もでき、自分にとってプラスになることばかりでした。英語かドイツ語がもっとうまく話せればさらに楽しくなったと思いました。

できるだけ早く英語を使えるようになって、ドイツ語ももっと理解できるようになって、高専を卒業する前に、もう1度海外に行ってきます。どこにいこうか迷っていますが、この3週間で仲良くなった友達のところにでも行こうかと思っています。

Danke schön.

